

# 調査結果

## 1 回答者の概要

### 1-1 回収率

- 一般調査では一般県民 4,800 名に対して調査票を郵送し、2,076 名から回答を得た。回収率は 43.3%であった。回収率は 5 地域全てで 40%を上回っており、地域による大きな差はない。（表 1 参照）
- 特別調査では地域代表者・県政モニター等 200 名に対して調査票を郵送し、162 名から回答を得た。回収率は 81.0%であった。回収率は県北・鹿行・県西地域が 80%超、県央・県南地域が 75%弱であった。（表 2 参照）

### 1-2 回答者の地域別構成

- 一般調査における回答の地域別構成は、実際の地域別人口構成に準ずる結果となった。（表 1 参照）
- 特別調査における回答の地域別構成は、実際の地域別人口構成からはやや変動があるものの、ほぼ準ずる結果となった。（表 2 参照）

【表 1 一般調査の回答の回収数・率、地域・市町村別構成】

地域	推計人口 (平成21年 9月1日現在)		発送数	回収数		
	地域別 構成			回収率	地域別 構成	
合計	2,966,796	100.0%	4,800	2,076	43.3%	100.0%
県北地域	643,376	21.7%	1,042	473	45.4%	22.8%
県央地域	472,876	15.9%	767	336	43.8%	16.2%
鹿行地域	279,520	9.4%	451	190	42.1%	9.2%
県南地域	993,484	33.5%	1,602	700	43.7%	33.7%
県西地域	577,540	19.5%	938	377	40.2%	18.2%

【表 2 特別調査の回答の回収数・率、地域・市町村別構成】

地域	推計人口 (平成21年 9月1日現在)		発送数	回収数		
	地域別 構成			回収率	地域別 構成	
合計	2,966,796	100.0%	200	162	81.0%	100.0%
県北地域	643,376	21.7%	36	32	88.9%	19.8%
県央地域	472,876	15.9%	39	29	74.4%	17.9%
鹿行地域	279,520	9.4%	19	16	84.2%	9.9%
県南地域	993,484	33.5%	66	49	74.2%	30.2%
県西地域	577,540	19.5%	40	36	90.0%	22.2%

### 1-3 回答者の属性別割合

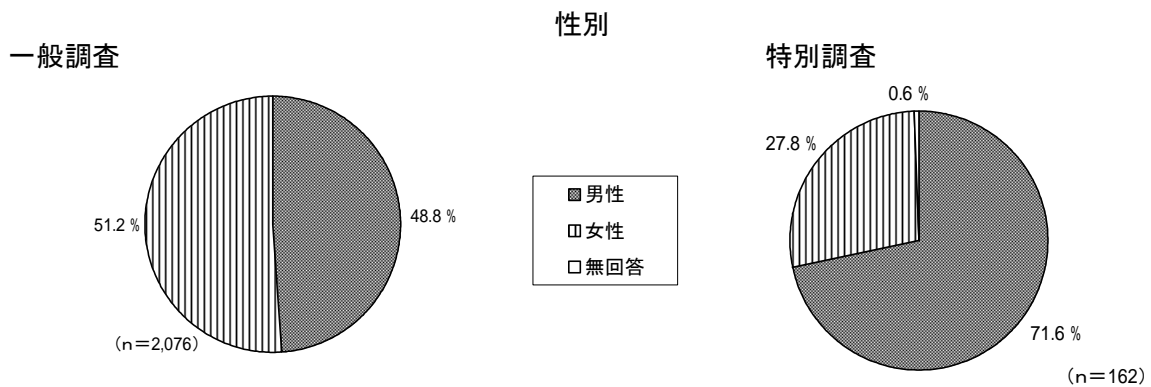
#### (1) 性別

(一般調査)

●男性が 48.8%，女性が 51.2%であった。

(特別調査)

●男性が 71.6%，女性が 27.8%で，一般調査に比べて男性割合が多い。



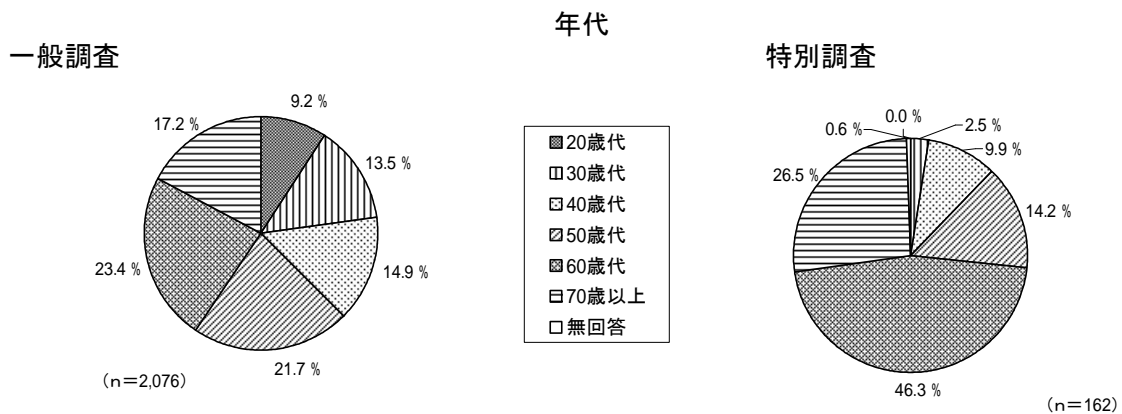
#### (2) 年代

(一般調査)

50・60歳代がいずれも 22%前後を占めて最も多く，30・40歳代がいずれも 14%前後，70歳以上が 17.2%で，20歳代は 9.2%で最も少ない。

(特別調査)

60歳代が 46.3%で最も多く，次いで 70歳以上が 26.5%であった。両者を合わせた 60歳以上が 72.8%を占めており，一般調査では 60歳以上が 40.6%であることに比べて多い。



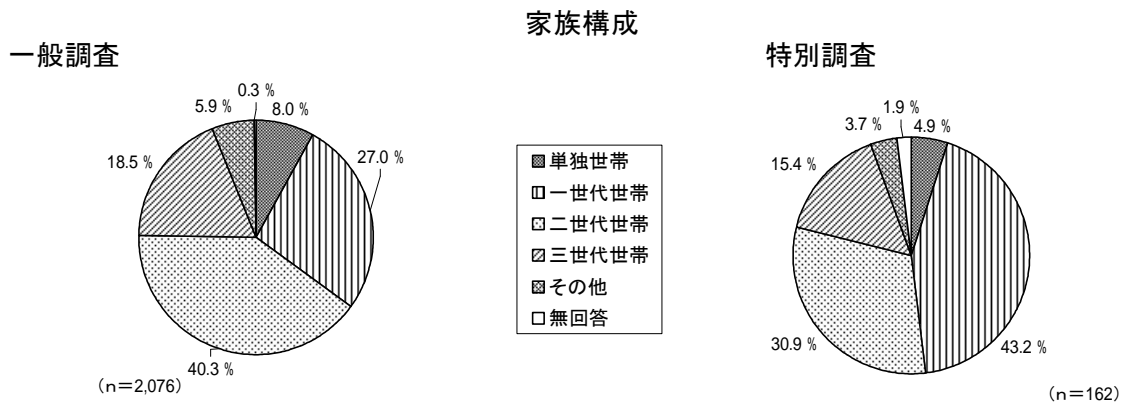
### (3) 家族構成

(一般調査)

- 二世世代世帯が 40.3%で最も多く、次いで一世代世帯（夫婦のみ）が 27.0%で、両者を合わせたいわゆる核家族世帯（「親+未婚の子供」もしくは「夫婦のみ」の世帯）が 67.3%でほぼ 7 割を占めている。これら以外では、三世世代世帯が 18.5%，単独世帯が 8.0%であった。

(特別調査)

- 一世代世帯（夫婦のみ）が 43.2%で最も多く、次いで二世世代世帯が 30.9%で、両者を合わせたいわゆる核家族世帯が 74.1%であった。これら以外では、三世世代世帯が 15.4%，単独世帯が 4.9%であった。



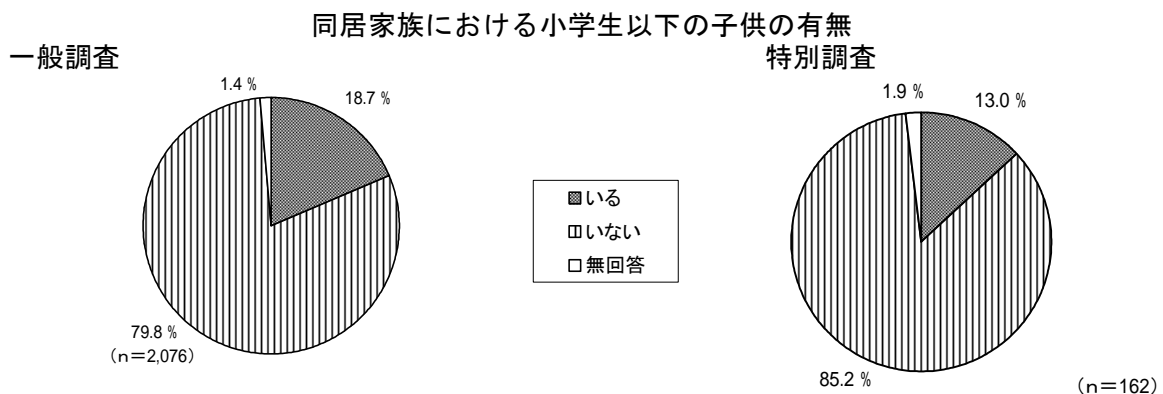
### (4) 同居家族における小学生以下の子供の有無

(一般調査)

- 同居家族における小学生以下の子供の有無については、「いる」が 18.7%で、「いない」が 79.8%であった。

(特別調査)

- 同居家族における小学生以下の子供の有無については、「いる」が 13.0%で、「いない」が 85.2%であった。



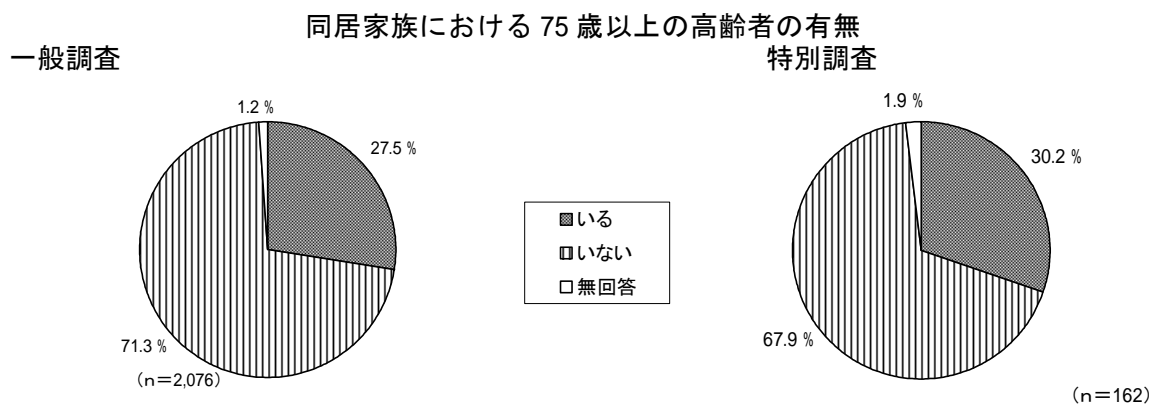
## (5)同居家族における75歳以上の高齢者の有無

(一般調査)

- 同居家族における75歳以上の高齢者(回答者を含む)の有無については、「いる」が27.5%で、「いない」が71.3%であった。

(特別調査)

- 同居家族における75歳以上の高齢者(回答者を含む)の有無については、「いる」が30.2%で、「いない」が67.9%であった。



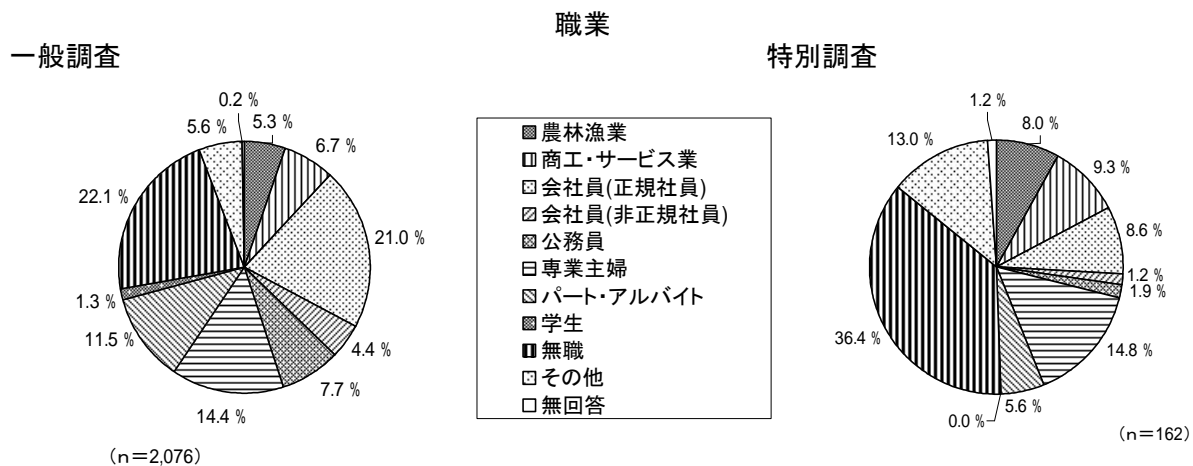
## (6)職業

(一般調査)

- 「無職」が22.1%で最も多く、差がなく「会社員（正規社員）」が21.0%が続いている。これら以外では「専業主婦」（14.4%）、「パート・アルバイト・フリーター」（11.5%）が1割強を占め、他の職業の割合はいずれも数%であった。
- 「会社員（正規社員）21.0%」「会社員（派遣社員・契約社員など非正規社員）4.4%」「公務員・団体職員7.7%」を合わせていわゆる「サラリーマン」とすれば、その割合は33.1%でほぼ1/3を占めている。

(特別調査)

- 「無職」が36.4%で最も多く、次いで「専業主婦」が14.8%となっており、これら以外の職業の割合はいずれも10%未満であった。
- 「会社員（正規社員）8.6%」「会社員（派遣社員・契約社員など非正規社員）1.2%」「公務員・団体職員1.9%」を合わせていわゆる「サラリーマン」とすれば、その割合は11.7%であった。



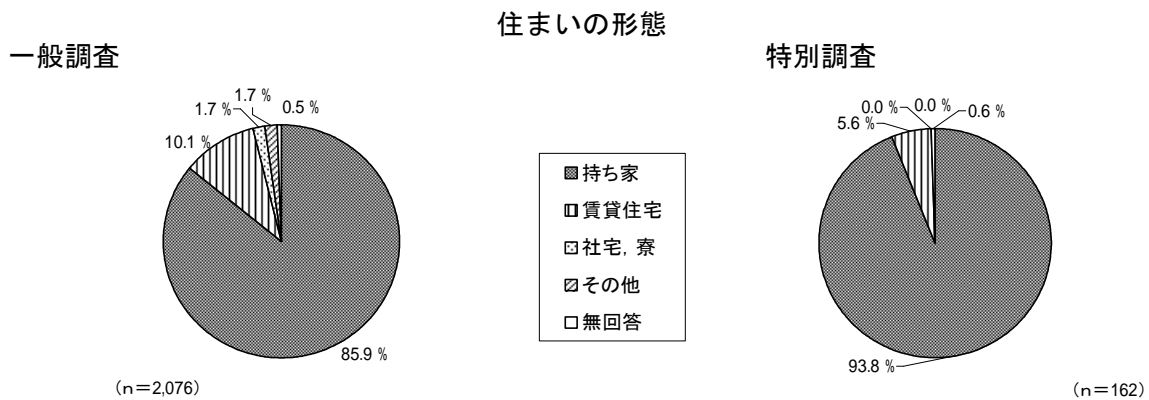
## (7)住まいの形態

(一般調査)

- 「持ち家」が85.9%を占めており、以下、「賃貸住宅」が10.1%、「社宅・寮」が1.7%であった。

(特別調査)

- 「持ち家」が93.8%を占めており、以下、「賃貸住宅」が5.6%で、「社宅・寮」は0%であった。



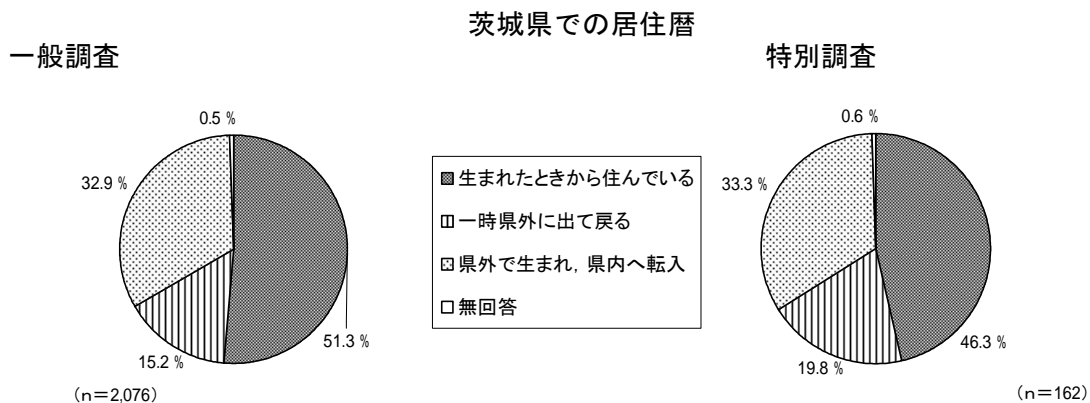
## (8)茨城県での居住歴

(一般調査)

- 居住歴は「生まれたときから住んでいる」が51.3%で過半数を占め、次いで「県外で生まれ、その後茨城県内に転入」が32.9%、「一時県外に出てから茨城県に戻った」が15.2%であった。

(特別調査)

- 居住歴は「生まれたときから住んでいる」が46.3%で半数は下回ったが最も多く、次いで「県外で生まれ、その後茨城県内に転入」が33.3%、「一時県外に出てから茨城県に戻った」が19.8%であった。



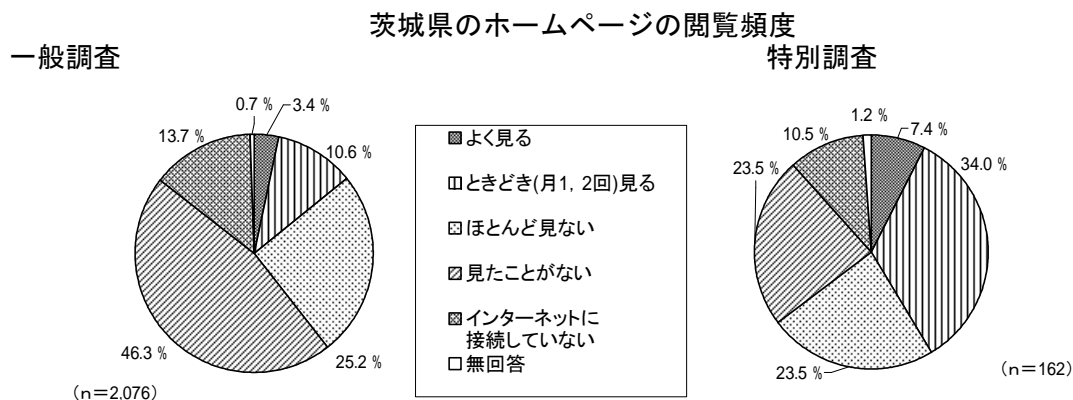
## (9) 茨城県ホームページの閲覧頻度

(一般調査)

- 茨城県ホームページの閲覧頻度は「見たことがない」が 46.3%で最も多く、次いで「ほとんど見ない」が 25.2%となっており、「ときどき見る」は 10.6%、「よく見る」は 3.4%であった。また、「インターネットに接続していない」は 13.7%であった。

(特別調査)

- 茨城県ホームページの閲覧頻度は「ときどき見る」が 34.0%とほぼ 1/3 を占めて最も多く、「よく見る」(7.4%)を合わせると 41.4%となり 4 割を超えている。これら以外では、「ほとんど見ない」「見たことがない」がいずれも 23.5%で、「インターネットに接続していない」は 10.5%であった。



## 2 調査結果の概要（一般調査）

### 2-1 すみやすさの評価

～ 住みやすいとの評価が6割超 ～

現在住んでいる地域の「住みやすさの評価」は、「住みやすい」（注1）が65.9%、「なんともいえない」が19.5%、「住みにくい」（注2）が14.1%であった。

（注1）「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計。以下、同じ。

（注2）「とても住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」の合計。以下、同じ。

「住みやすい」は前々回調査（1999年実施）から前回調査（2004年実施）にかけて若干増加（2.1ポイント）したが、今回は前回調査と比べて減少（-8.1ポイント）する結果となった。

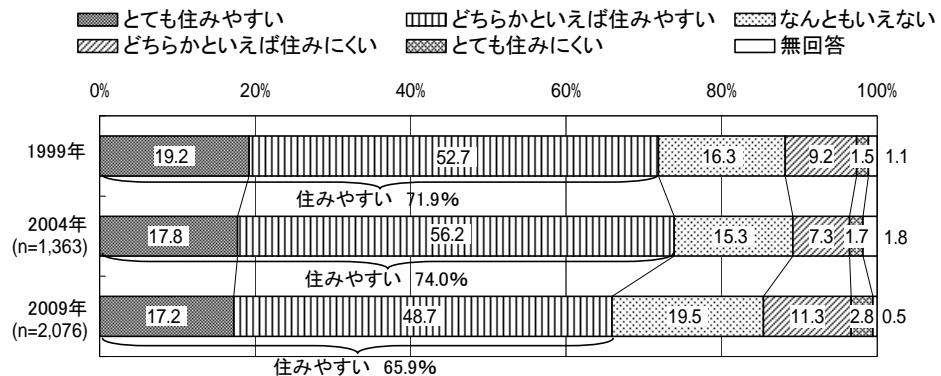
県民の定住意識は、「住み続けたい」（注3）が68.2%、「なんともいえない」が19.5%、「移りたい」（注4）が11.9%であった。

（注3）「ずっと住み続けたい」「できるならば住み続けたい」の合計。以下、同じ。

（注4）「なるべく早く移りたい」「できるならば移りたい」の合計。以下、同じ。

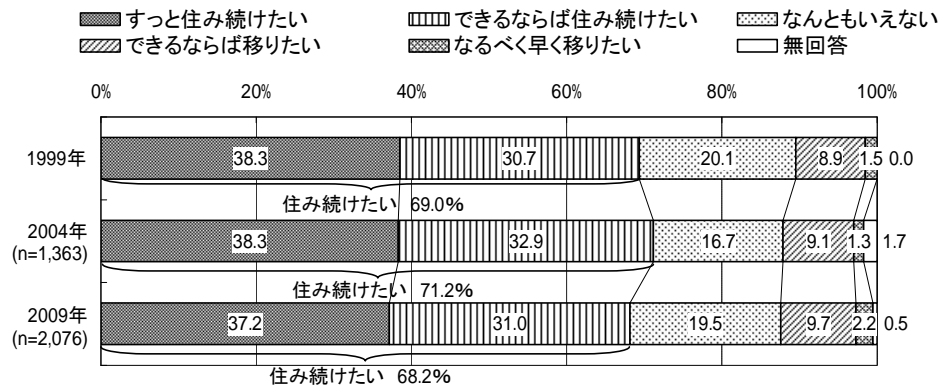
「住み続けたい」は前々回調査（1999年実施）から前回調査（2004年実施）にかけて若干増加（2.2ポイント）したが、今回は前回調査と比べて若干減少（-3.0ポイント）する結果となった。

#### 住みやすさ





## 定住意向



## 2-2 定住・転居の理由

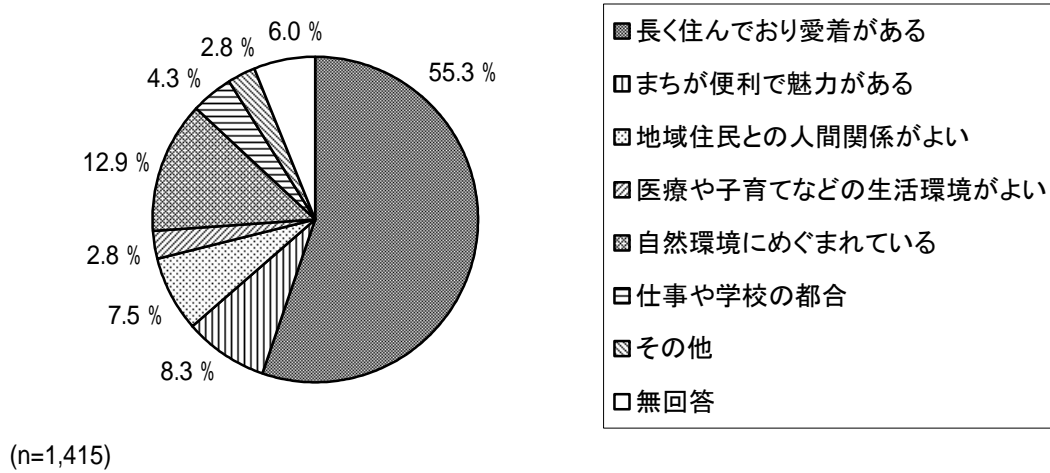
～ 住みたい理由は“愛着がある”，移りたい理由は“不便で魅力がない”～

住みたい理由としては、半数以上が「長く住んでおり愛着がある」（55.3%）を挙げ、次いで「自然環境にめぐまれている」（12.9%）、「まちが便利で魅力がある」（8.3%）となった。

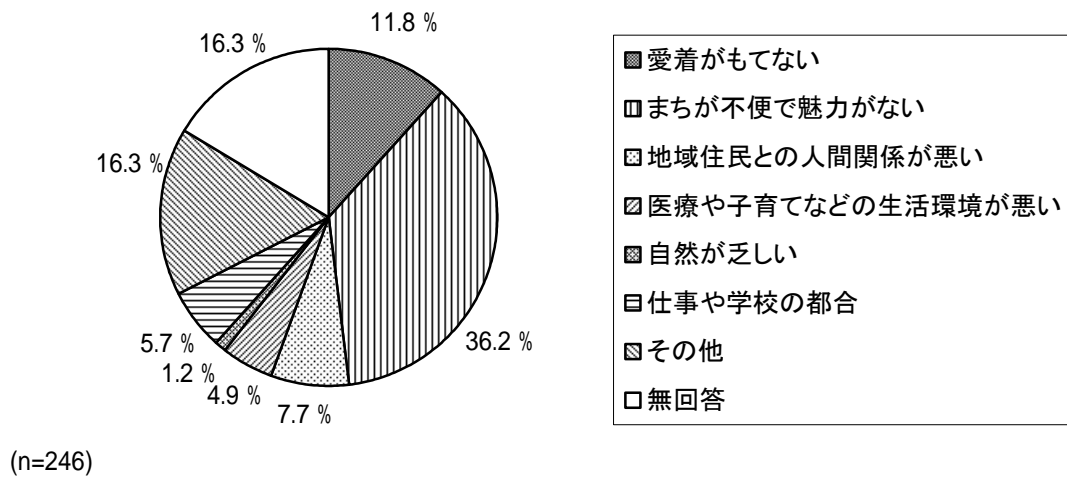
前回調査では「長く住んでおり愛着がある」（48.5%）、「自然環境に恵まれている」（17.7%）、「住宅やまわりの環境がよい」（13.9%）の順であった。今回調査でも上位2理由は同じであるが、その割合は変化しており、「長く住んでおり愛着がある」は増加し（6.8ポイント）、「自然環境にめぐまれている」は減少（-4.8ポイント）している。

移りたい理由としては、1/3強が「まちが不便で魅力がないから」（36.2%）を挙げて最も多い。それ以外の理由は分散しているが、なかでは「愛着が持てない」が11.8%で比較的多く、以下、「地域住民との人間関係が悪い」（7.7%）、「仕事や学校の都合」（5.7%）と続くが、「その他」（16.3%）と「無回答」（16.3%）が合わせて32.6%と3割強を占めており、移りたい理由には一口では言えない部分も多いと思われる。前回調査では「不便で魅力がない」（41.8%）、「生活環境が悪い」（16.3%）、「人間関係が悪い」（7.8%）、「愛着がもてない」（7.1%）の順であった。今回調査でも最も多い理由は「不便で魅力がない」で同じであるが、その割合は低下しており（-5.6ポイント）、移りたい理由は多様化する傾向にある。

### 住み続けたい理由



### 移りたい理由



## 2-3 社会環境の変化

～ 少子・高齢社会への不安が高まり、  
医療・治安・食品安全・環境対策については4～6割が不十分 ～

社会環境の変化について

- ・「不安に思う」との回答が最も多い社会環境の変化は「高齢化の進行」（88.6%）で9割弱を占めており、次いで「人口の減少」（76.5%）についても8割弱と高い割合を示している。一方、「国際化社会（外国人の増加）」については「不安に思う」割合は39.7%で4割弱となっている。
- ・前回調査と比べると、「高齢化の進行」（79.8% 88.6%）、「人口の減少」（71.6% 76.5%）については不安割合は高まっているが、「国際化社会（外国人の増加）」（50.6% 39.7%）については不安割合は低下している。

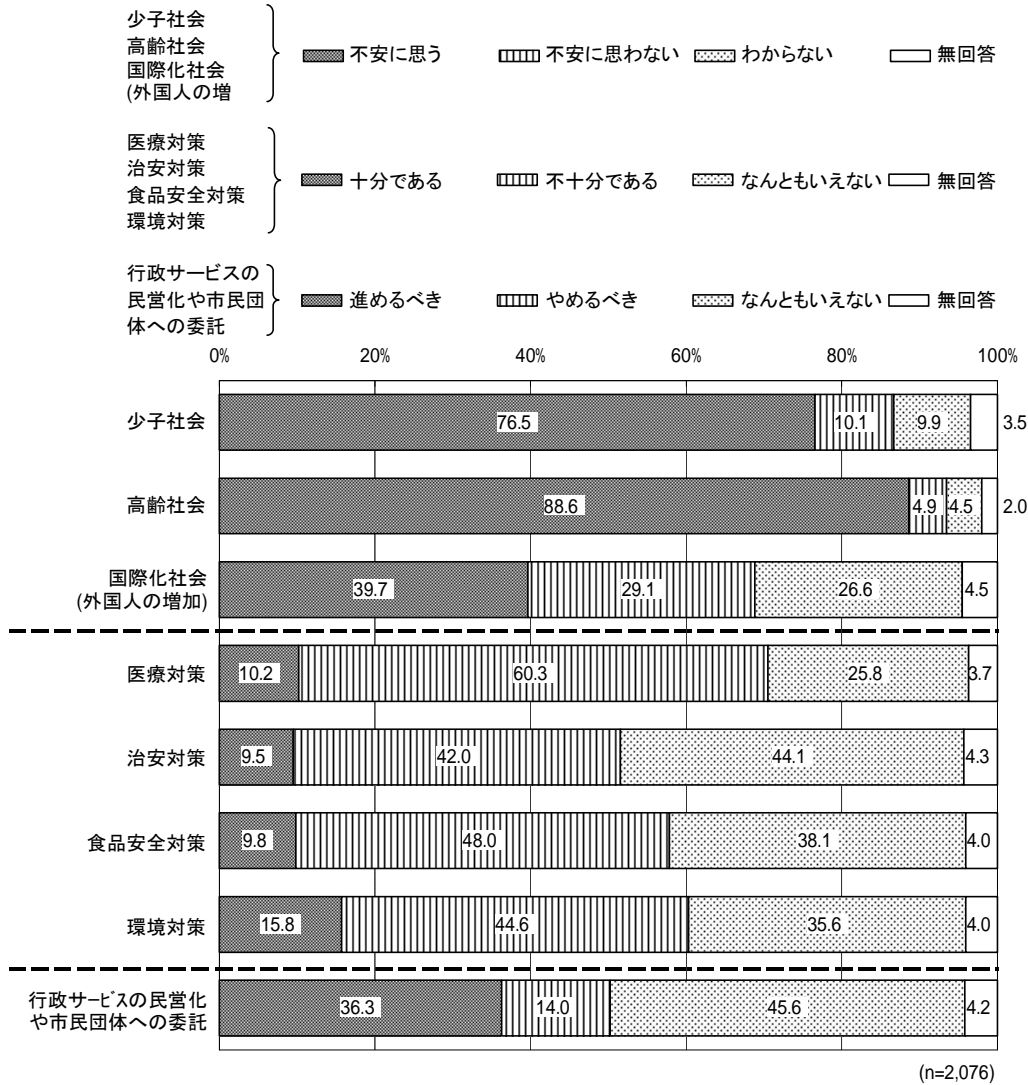
各種対策について

- ・いずれの対策についても「不十分である」が4～6割を占めて概ね多数派となっており、その割合は多い順に「医療対策」（60.3%）、「食品安全対策」（48.0%）、「環境対策」（44.6%）、「治安対策」（42.0%）となっている。
- ・前回調査では「食品安全対策」「環境対策」「治安対策」について設問しており、いずれについても「不十分である」が5～6割を占めていたが、今回調査ではその割合は4～5割へと減少している。

行政サービスの民営化や市民団体への委託について

- ・「なんともいえない」（45.6%）が半数近くを占めて最も多い。次いで「進めるべき」（36.3%）が1/3強を占めており、「やめるべき」（14.0%）に比べると22.3ポイント多い。
- ・前回調査では「進めるべき」（45.9%）が半数近くを占めていたが、今回調査ではその割合が減少し（-9.6ポイント）、その分、「なんともいえない」「やめるべき」の割合が多くなっている。

## 社会環境の変化



## 2.4 県民ニーズ

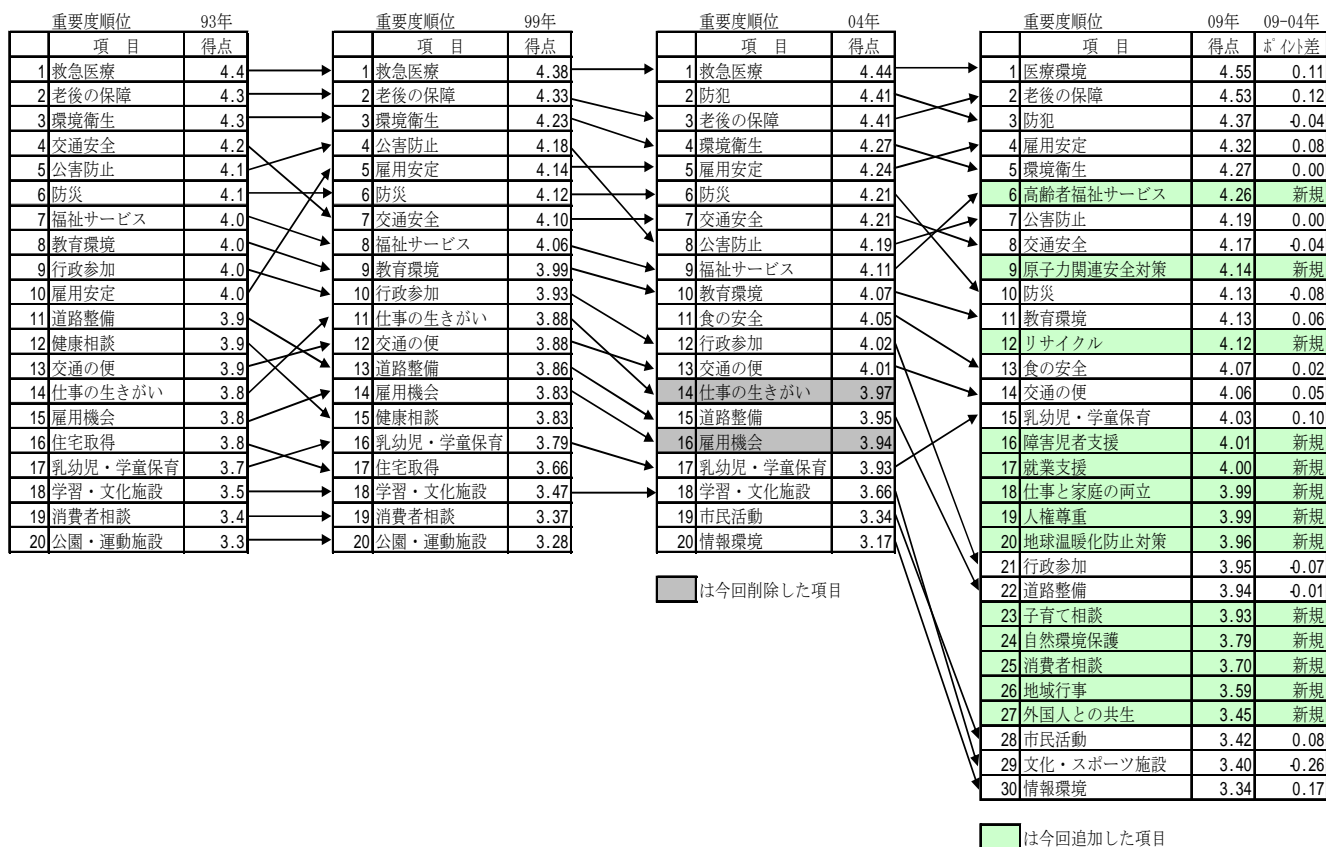
～ 満足度は上昇傾向、高まる「老後保障」「雇用安定」「福祉サービス」ニーズ ～

今回の調査では、前回調査の20項目から「仕事のいきがい」「雇用機会」を除き、新たに「就業支援」「地球温暖化防止対策」「原子力関連の安全対策」「消費者相談」「仕事と家庭の両立」「子育て相談」「自然環境」「リサイクル」「人権の尊重」「地域行事」「外国人との共生」の11項目を追加、また、「福祉サービス（高齢者、障害児者）」を「高齢者福祉サービス」「障害児者支援」の2つに分け、計30項目について県民の重要度、満足度を調査した。

### 重要度

※重要度は「とても重要である：5点」「重要である：4点」「どちらともいえない：3点」「あまり重要でない：2点」「全く重要でない：1点」として項目ごとに回答者の平均値を算出した。数値が5点に近くなるほど重要度は高くなる。

- ・重要度は「医療環境」（平均4.55）が最も高く、以下、「老後の保障」（同4.53）、「防犯」（同4.37）、「雇用安定」（同4.32）、「環境衛生」（同4.27）と続く。
- ・前回調査と比べると、上位5項目は同じ項目が占めているが順位は変動している。1位が「医療環境」であることは同じであるが、「老後の保障」（3位→2位）、「雇用安定」（5位→4位）が順位を上げ、「防犯」（2位→3位）、「環境衛生」（4位→5位）が順位を下げている。また、前回調査での6位から20位までの項目は多くがその順位を下げている中で、「高齢者福祉サービス」（福祉サービスとして9位→高齢者福祉サービスとして6位）、「公害防止」（8位→7位）、「乳幼児・学童保育」（17位→15位）が順位を上げており、また、今回追加した項目の中から「原子力関連安全対策」（9位）、「リサイクル」（12位）、「就業支援」（17位）、「仕事と家庭の両立」（18位）、「人権尊重」（19位）、「地球温暖化防止対策」（20位）が新たにランクインしている。

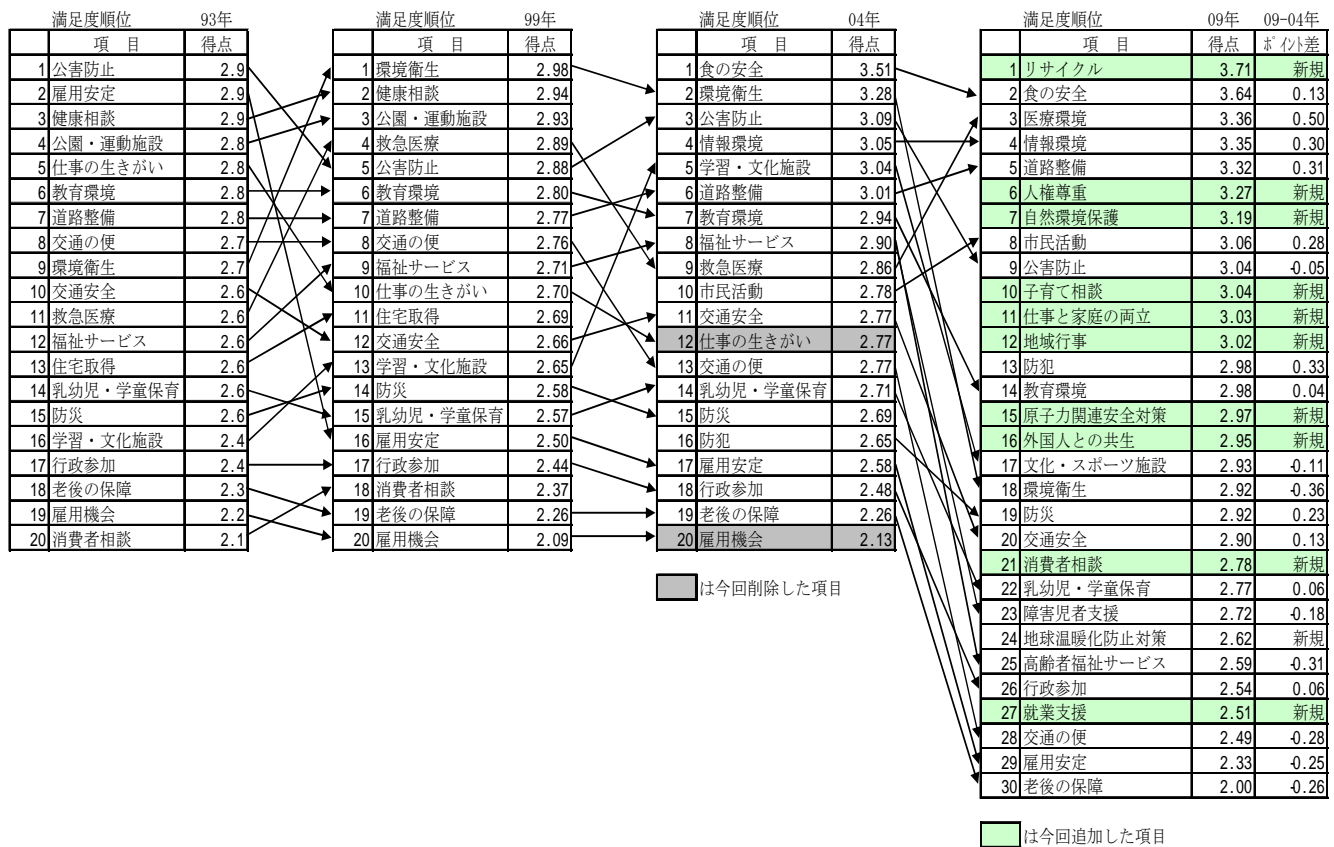


## 満足度

※満足度は「満足している：5点」「やや満足している：4点」「どちらともいえない：3点」「やや不満である：2点」「不満である：1点」として項目ごとに回答者の平均値を算出した。数値が5点に近くなるほど満足度は高くなる。

- ・満足度は今回新たに追加した「リサイクル」（平均3.71）が最も高くなり、以下、「食の安全」（3.64）、「医療環境」（3.36）、「情報環境」（3.35）、「道路整備」（3.32）などと続く。
- ・前回調査と共通する19項目（注1）を見ると、満足度は11項目で上昇し、8項目で低下している。また、比較可能なそれらの19項目に限定して満足度の平均を見ると、前回調査では2.85、今回調査では2.89となっており、満足度は若干上昇した。満足度の上昇度合いが比較的大きい項目としては「医療環境」（2.86→3.36）、「防犯」（2.65→2.98）、「道路整備」（3.01→3.32）、「情報環境」（3.05→3.35）があり、低下度合いが比較的大きい項目としては「環境衛生」（3.28→2.92）、「高齢者福祉サービス」（福祉サービス2.90→高齢者福祉サービス2.59）がある。

（注1）前回と今回の共通項目は18項目であるが、内「福祉サービス」は今回は「高齢者福祉サービス」「障害児者支援」に分けている。



### 県民のニーズ

- ・各項目に対する重要度と満足度から県民のニーズ度を測ると、「老後の保障」（ニーズ度 18.4）が最も高く、以下、「雇用安定」（同 16.2）、「高齢者福祉サービス」（同 14.8）、「交通の便」（同 14.4）、「就業支援」（同 14.2）などと続く。
- ・前回調査においても県民ニーズは「老後の保障」が最も高かったが、今回そのニーズ度はさらに上昇した。今回の県民ニーズ上位 10 項目を見ると、前回の上位 10 項目（注2）の内の 7 項目（「老後の保障」「防犯」「雇用安定」「行政参加」「交通の便」「高齢者福祉サービス」「障害児者支援」）が残り、あらたに前回 16 位の「環境衛生」、そして今回新たに追加した項目の中の 2 項目（「就業支援」「地球温暖化防止対策」）が加わる形となった。

（注2）今回は調査項目としなかった「雇用機会」「仕事の生きがい」を除き、前回調査での上位 12 項目までを見た。

ニーズ度順位		99年	ニーズ度順位		04年	ニーズ度順位		09年	09-04年
項目	得点		項目	得点	項目	得点	ポイント差		
1 老後の保障	16.2	→	1 老後の保障	16.5	→	1 老後の保障	18.4	1.9	
2 雇用機会	15.0	→	2 雇用機会	15.2	→	2 雇用安定	16.2	1.7	
3 雇用安定	14.5	→	3 防犯	14.8	→	3 高齢者福祉サービス	14.8	2.0	
4 防災	14.1	→	4 雇用安定	14.5	→	4 交通の便	14.4	1.5	
5 行政参加	14.0	→	5 行政参加	14.1	→	5 就業支援	14.2	新規	
6 交通安全	13.7	→	6 救急医療	13.9	→	6 行政参加	13.9	-0.2	
7 救急医療	13.6	→	7 防災	13.9	→	7 地球温暖化防止対策	13.6	新規	
8 高齢者・障害児・者福祉サービス	13.4	→	8 交通安全	13.6	→	8 障害児者支援	13.4	新規	
9 公害防止	13.0	→	9 交通の便	12.9	→	9 防犯	13.3	-1.5	
10 乳幼児・学童保育	13.0	→	10 乳幼児・学童保育	12.9	→	10 環境衛生	13.2	1.6	
11 仕事の生きがい	12.8	→	11 仕事の生きがい	12.8	→	11 乳幼児・学童保育	13.2	0.3	
12 環境衛生	12.8	→	12 高齢者・障害児・者福祉サービス	12.7	→	12 交通安全	13.0	-0.5	
13 教育環境	12.8	→	13 教育環境	12.5	→	13 防災	12.8	-1.2	
14 交通の便	12.6	→	14 公害防止	12.2	→	14 原子力関連の安全対策	12.6	新規	
15 道路整備	12.5	→	15 道路整備	11.8	→	15 公害防止	12.6	0.4	
16 消費者相談	12.2	→	16 環境衛生	11.6	→	16 教育環境	12.6	0.1	
17 住宅取得	12.1	→	17 学習・文化施設	10.8	→	17 医療環境	12.1	-1.9	
18 健康相談	11.7	→	18 市民活動	10.7	→	18 消費者相談	12.0	新規	
19 学習・文化施設	11.6	→	19 食の安全	10.1	→	19 仕事と家庭の両立	11.9	新規	
20 公園・運動施設	10.1	→	20 情報環境	9.4	→	20 子育て相談	11.6	新規	

は今回削除した項目
  は今回追加した項目

(注) ニーズ度は、満足度と重要度について5段階で回答を求め、以下の算式により数値化して求めた。

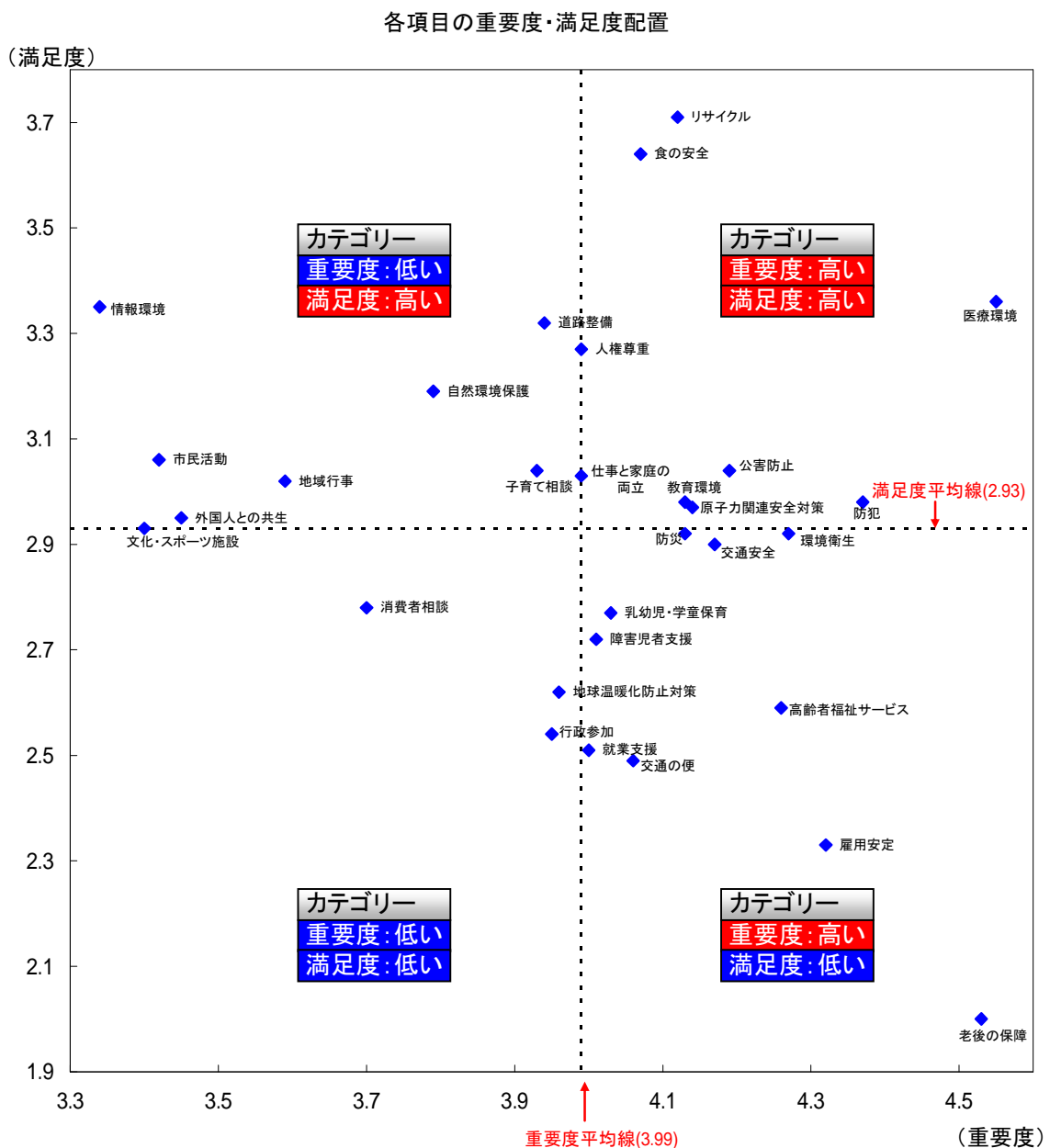
※ニーズ度＝重要度×不満足度

なお、不満足度は満足度とは逆に、「満足している：1点」「やや満足している：2点」「どちらともいえない：3点」「やや不満である：4点」「不満である：5点」として項目ごとに回答者の平均値を算出して、重要度に乗じた。不満足度は5点に近くなるほど不満足度は高くなる。



### 各項目の重要度・満足度配置

- ・重要度を横軸（表の右に行くほど重要度は高くなる）、満足度を縦軸（表の上に行くほど満足度は高くなる）にとり、調査結果に基づいた各項目の配置を示した。表中では重要度・満足度の平均値を波線で示すことにより、便宜上、表をⅠ～Ⅳまでのカテゴリーに4分割した。カテゴリーⅠに配置された項目が「重要度が高く、かつ満足度も高い」項目、カテゴリーⅣに配置された項目が「重要度は高いが、満足度が低い」項目となる。
- ・同表においてもやはり「老後の保障」が右下隅に位置しており、重要度が高いが満足度が低い項目としてやや突出していることがわかる。

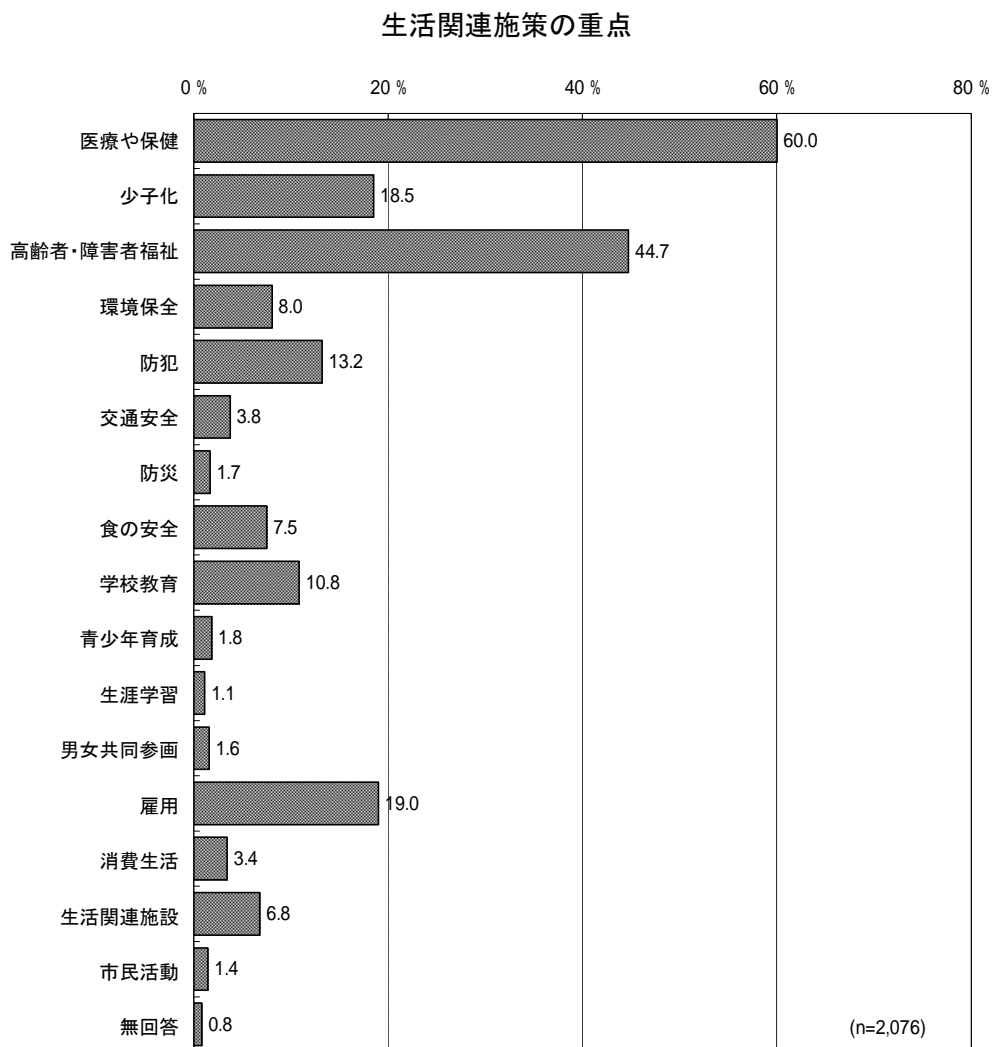


## 2.5 施策のキーワード

～ 「医療・保健」「高齢者・障害者福祉」に力を入れてほしい ～

今後最も力を入れてほしい施策の分野としては、「医療や保健」が60.0%を占めて最も多く、次いで「高齢者・障害者福祉」が44.7%であった。

上記以外の分野については選択者は大きく減少するが、なかでは「雇用」(19.0%)、「少子化」(18.5%)、「防犯」(13.2%)、「学校教育」(10.8%)が1～2割を占めており、他の分野に比べてやや多くなっている。



## 2-6 地域の将来像

～ 高齢者や障害者が安心して暮らせるまちに暮らしたい ～

住んでいる地域の将来の姿として期待する”まち”としては、6割超が「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」（63.3%）を挙げており最も多い。それ以外は3割未満に減少するが、「教育や子育ての環境が整備されたまち」（27.9%）、「自然環境が豊かなまち」（24.5%）、「ゴミのポイ捨てや産業廃棄物の不法投棄のない美しいまち」（19.6%）、「交通が便利なまち」（18.0%）と続く。

前回調査においても「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」が最も多かったが、今回調査ではその割合は10ポイント近く増えた（前回53.6%→今回63.3%）。また、前回調査では4位であった「教育や子育ての環境が整備されたまち」が今回調査では4ポイント強増えて（前回23.7%→今回27.9%）2位に順位を上げ、一方、「自然環境が豊かなまち」（前回2位）、「ゴミのポイ捨てや産業廃棄物の不法投棄のない美しいまち」（前回3位）は今回はやや減って、それぞれ3位・4位へと順位を下げた。

住んでいる地域の将来像

